

RCNP-JAEA Workshop

Nuclear Photon Science "Hadron-nuclear physics probed by photon

Feb. 16-18, 2006, JAEA (Japan Atomic Energy Agency), Kizu, Kyoto

世話人：J.K. Ahn (Pusan), M. Fujiwara (RCNP, Osaka and JAEA)

T. Hayakawa (JAEA), A. Hosaka (RCNP, Osaka)

T. Hotta (RCNP, Osaka), H.C. Kim (Pusan), T. Myo (RCNP, Osaka)

K. Sumiyoshi (Numazu), S.-L. Zhu (Peking)

2006年2月16日 - 18日(3日間)の日程で、原研関西研究所との共催で上記ワークショップをおこなった。60名の参加者、41の講演があった。

このワークショップは当初、RCNP-Pusanで過去10年間にわたり継続しているワークショップの一環として行なう予定であったが、今回は、物理の議論と参加者の拡大を図り、テーマは「光」を使った原子核研究、参加者は日中韓から募った。RCNPで計画されるLEP2およびMeVガンマ領域の物理、原研で進められているレーザーを利用した科学とを合わせた分野、しかし、光をキーワードにした議論をめざした。この分野に関心を持つ研究者が、日中韓、理論と実験、基礎・応用科学等の分野から集まった。我々にとっては、普段物理の研究会では聞くことのない、光の科学の幅の広さについて議論することができた。

添付のプログラムの通り、ハドロン物理の理論・実験から始まり、2日目は原子核物理の話題と、高強度レーザーの基礎理論とその応用、そして最終日は天体核物理の話題がカバーされた。物理の話題に加え、日本、韓国、中国の実験施設の現状に関する報告もあった。

この研究会を通して、光が現在自由にコントロールできるプローブであり高強度、高精度ガンマビームのもつ可能性について、改めて認識することができた。原子核・ハドロンの分野でも、光を使った物理研究の方向性をより一層進めていくべきであろう。

今後はこの研究会をこれらの国で共同して開催して行くことで、合意が得られた。次回は韓国(プサン)での開催予定である。